

かみすながわ

議会だより

令和7年 第4回定例会

第35号

発行 上砂川町議会

編集

議会活性化特別委員会

電話 0125-62-2880

地域おこし協力隊との意見交換会



協力隊員が淹れたコーヒーと
手作りパウンドケーキ

掲載内容

- | | |
|-----------------------|-----|
| * 主な議会政務報告 | 2 P |
| * 一般質問と答弁内容（要旨） | 3 P |
| * 地域おこし協力隊活動報告会・退任激励会 | 6 P |
| * 地域おこし協力隊との意見交換会 | 6 P |

主な議会政務報告について

令和8年1月以降～

| 年月日 | 会 議 行 事 名 | 場 所 | 出 席 者 | |
|---------|---------------------------|-------------|-----------------|------------------------|
| R8 1 | 1 上砂川神社元旦祭 | 上砂川神社 | 議長 | |
| | 4 上砂川消防出初式 | 上砂川支署 | 議長他 | |
| | 5 仕事始めの式 新年交礼会 | 役場 | 議長・副議長 | |
| | | 町民センター | 議長他2名 | |
| | 10 上砂川町20歳のつどい | 町民センター | 副議長 行政常任委員長 | |
| | 13 上砂川商工会議所「議員」新年会 | 上砂川岳温泉 | 議長 | |
| | 16 行政常任委員会正副委員長打ち合わせ | 役場 | 笹木委員長 蔵根副委員長 | |
| | 23 第1回上砂川町議会臨時会 | 議事堂 | 全議員 | |
| | | 新消防車両お披露目 | 役場駐車場 | 全議員 |
| | | 行政常任委員会 | 役場 | 全委員・議長 |
| | | 議会活性化特別委員会 | 役場 | 伊藤議員・笹木議員 蔵根議員・石田議員 |
| | 28 上砂川消費者協会新年会 | 町民センター | 議長 | |
| | 30 地域おこし協力隊活動報告会及び退任激励会 | 町民センター | 議長 | |
| 2 | 2 議会活性化特別委員会 | 役場 | 笹木議員・石田議員 | |
| | 3 上砂川建設業協会懇談会 | 上砂川岳温泉 | 議長 | |
| | 5～6 令和8年第1回空知町村議会議長会定期総会 | 妹背牛町 北竜町 | 議長 | |
| | 7 2026年上砂川冬まつり | 町内 | 議長他 | |
| | 9 地域おこし協力隊との意見交換会 | まちの駅ふらっと | 蔵根副委員長他5名 議長 | |
| | 16 空知中部広域連合議会第1回定例会 | 奈井江町 | 議長・伊藤議員 | |
| | | 滝川市 | 議長 | |
| | 17 第1回中・北空知廃棄物処理広域連合議会定例会 | 滝川市 | 議長 | |
| | | 滝川市 | 議長・蔵根議員 | |
| | 26 議会運営委員会 | 役場 | 全委員・議長 | |
| | 27 第1回砂川地区保健衛生組合議会定例会 | 砂川市 | 笹木議員 | |
| 砂川市 | | 笹木議員 | | |

令和8年第1回上砂川町議会定例会を傍聴しませんか？

本会議は、簡単な手続きで自由に傍聴することができます。町議会の活動などを知るよい機会ですので、ぜひ傍聴にお越しください。

※日程は変更となることがあります。

○議 会 日 程：3月9日（月）～17日（火）

○傍聴可能日：9日・10日・17日

一般質問
(質問者順)

議席番号3番

笹木 笑子



質問要旨

ドローンの活用促進

ドローン活用の現状としては、地域おこし協力隊員が防災訓練空撮映像による町の魅力の発信、高齢者の介護予防、子ども達のプログラミング教育等、様々な分野で横断的に活用されており、将来的には、災害救助、子ども・高齢者の見守り活動や物流配送等多面的に有効な活用ができる」と期待している。

① 現在、オペレーターが3年の

就労期限の縛りがある地域おこし協力隊員が担っている本町において、将来的なドローンの活用についての考えを伺いたい。

② 将来的にも様々な有効活用が考えられるが、オペレーター育成についての考えを伺いたい。

答弁要旨

1 点目の「将来的なドローンの活用の考え」については、今後は不法投棄監視などの環境分野、更にはこれまで目視で行ってきたインフラ・設備点検での活用、現場データのデジタル保存といった建設DXも含め、行政事務において多岐にわたる活用が期待されているところであり、地域おこし協力隊員自身レベル4飛行の資格を有していることから、町が航空法に基づくドローン特区認定を受け、飛行が可能となるため、現在、特区認定に向けた申請準備を行っており、将来的には技術開発

展の場として企業や研究機関などの事業者が町の特区を利用して行うドローン実証実験の総合窓口になることを目指しております。特区認定については、町としても既に包括連携協定を締結している北海道科学大学に協力を依頼しており、協力隊が進める事業への支援に加え、機体購入についても国の助成を要望するなど起業に向けた後押しの中で、ドローン技術の活用が自治体DXの一環として業務の効率化に伴う生産性の向上、経費削減、人手不足解消、また業務の内製化にも直結することから、関係部署間でドローンの有効性を確認しながら、横断的に活用方法の検討を考えております。

2 点目の「オペレーターの育成」につきましては、職員の意向も踏まえながら人材育成の体制を整えていくことが重要と考えますが、業務上の活用となると国家資格が必須となる操作技術の習得はもとより、法令の理解、条例や安全管理マニュアル、ガイドラインの整備の他、電波環境の運用ルール、プライバシー

保護など専門的な知識が求められることから複数年にわたる人材育成が不可欠であります。このことから行政だけの取り組みには限界があり、例えば滝川測量設計株式会社との間で「無人航空機等による災害時支援等」の協定を締結しており、高度な知識と技術を有する民間との協定や一部委託、外部専門家との連携、また可能であれば道や近隣市町、警察・消防との連携運用等を模索するなど、他市町村の事例等も参考にしながら、実行可能な部分から取り組みを進めていくことを申し上げます。





質問要旨

オストメイトの防災対策

災害時の避難所では、安心して使用できるトイレの確保が、避難者の健康を守るために重要であり、各々に配慮したトイレ環境の構築が求められています。オストメイトの方は、避難所のトイレで排泄の処理に時間がかかってしまい「混雑やトラブルに繋がるのでは」と不安を抱えています。そのうえ多機能トイレの整備の遅れや通常のトイレまた災害備蓄用の携帯トイ

レ等の利用は非常に無理があることから、対策としてオストメイト専用の簡易トイレの備蓄を求めます。

これは本町の「町全体で災害に備える体制整備に努める」という目的に即した防災対策でありオストメイトの不安軽減にも繋がるものです。災害時の避難所生活の中で、オストメイトの方が安心して排泄の処理ができる場所の確保に努めることは極めて重要ですが見解を伺います。

答弁要旨

本町におきましては地域防災計画に基づき、良好な生活環境の確保を目的とした避難所運営マニュアルを作成しており、高齢者や障害のある方、妊産婦、子どもがいる家庭など様々な立場の方に配慮した避難所が設営できるように、その基本方針を定めております。

また、防災備蓄では非常食や飲料水等の生活必需品に重点を

置きつつ、特別な配慮を要する方々への対応も含め、優先順位を付けて備蓄を進めておりますが、議員ご質問の「オストメイト専用の簡易トイレの備蓄」についてはその重要性は理解しているものの、初期費用に加え洗浄剤等の消耗品に係る更新が必要であり、財源確保や管理上の問題から備蓄に至っていないのが現状であります。

しかしながら、役場庁舎にオストメイト専用トイレを設置していること、また町民センターにはバリアフリートイレが設置され、幅広く誰にでも利用しやすい環境であります。避難を余儀なくされる場合には、避難所における事前受付の段階で心理的不安を解消できるよう関係部署との連携強化を図りながら、優先的に町民センター・体育センターへの避難誘導を行うとともに、トイレ確保対策として簡易トイレやワンタッチテント等の整備を進めている中、ストーマをお持ちの方の支援にも繋がるよう、財源確保と保管場所の確保や適正管理、プライバシーの

配慮、利用に関するルール化といった課題解決に努めながら専用携帯トイレの備え、更には福祉避難所での活用も含め検討してまいりますことを申し上げます。





質問要旨

第21期町政に向けた奥山町長の決意

奥山町長におかれましては、3期12年間、極めて厳しい財政状況の中で、今年策定の「第8期上砂川町総合計画 前期基本計画」の下、時代の変化を見据えつつ、人口減少・少子高齢化対策、更には地域経済の活性化を中心に、将来に向けて持続可能な町政を確立する基盤づくりという極めて難しいかじ取りを的確に進めてこられました。

本町に山積する様々な課題に対し、将来に向け何を成すべきかを明確にし、政府への中央要請活動を積極的に展開され、国とのパイプを強固に築かれた努力とその姿勢に、町民をはじめ町内外から高い評価を受けておられます。

本町は自主財源が乏しく、地方交付税への依存度が高い厳しい環境にあります。是非これまでの経験を生かして、第21期に向けた前向きかつ積極的な答弁を賜りますようお願い申し上げます。質問といたします。

答弁要旨

まず、ただいまは町長就任以来進めてまいりました各種施策の推進に對しまして身に余る高い評価をいただいた事に心から感謝申し上げます。

私は、平成26年4月に第8代上砂川町長として就任して以来、議員各位並びに多くの町民の皆様のご支援、ご協力の下、町政

運営を担わせていただきました。この間、各種政策の推進をしっかりとさせて頂きましたが、これは決して一人の思いで成しえる事は出来ず、そこには議員各位並びに町民の皆さん、そして職員、さらには歴代の地域おこし協力隊員のご協力があつての賜物と感じているところで御座います。

これまでを鑑みると、本町の最重要課題である人口減少、少子高齢化への対応、持続可能な財政運営、防災体制の充実など、その他町民の安全、安心と、地域経済を守ることを最優先に取り組んでまいりました。

また、老朽化した消防庁舎、認定こども園、地域コミュニティの拠点であり、有事の際の避難場所ともなる下鴨、鶉若葉生活館の建て替え、何よりも多くの皆様ご理解をいただき、災害時の防災拠点ともなる役場新庁舎の建設も実施させていただいたところで御座います。

これまで町民の付託の重さを常に心にとどめながら、本町が抱えている人口減少、少子高齢

化対策、さらには地場産業の振興にも努めてまいりましたが、依然として道半ばの課題も多く残されており、加えて地域医療や地域公共交通問題、少子化に伴う学校再編など中長期的視点で新たに取り組むべき課題も山積している状況にあると思っております。

こうした課題に引き続き責任を持って真摯に向き合う必要性を感じているところでもあり、今現在置かれている状況や町の継続性、町政の継続性と安定性の観点からも次期町長選挙に向けて熟慮を重ね、4期目の出馬の意向を固めたところで御座います。

いずれにいたしましても、現時点では残された任期が4か月程となっておりますが、町民の皆様への負託に応える町政運営に邁進して参ります事を申し添え、私からの答弁とさせていただきます。



地域おこし協力隊 活動報告会・退任激励会

地域おこし協力隊活動報告会・退任激励会に出席しました。

これまで取り組んできた各種プロジェクトの内容や成果、今後の展望について具体的な説明があり、地域課題に真面目から向き合う強い熱意と行動力が伝わってきました。

特に訪問リハビリ支援や訪問看護体制の整備など、地域医療と福祉の充実に直結する取り組みは、多くの可能性と広がりを感じさせるものでした。

これまでの功績に感謝するとともに、新たな場所での挑戦が実り多いものとなるよう願っています。

今後も地域とのつながりを大切にしながら、更なる活躍と地域貢献が続いていくことを期待し、引き続き応援してまいります。

【記 石田 浩二】

【活動報告会の様子】



地域おこし協力隊との 意見交換会

地域の未来を見据えた新たな挑戦や発想が数多く示される、有意義な意見交換の場となりました。

意見交換会では、私たちが道外政務調査で訪問した先進地の取り組みや成果を、パワーポイントにまとめて報告しました。

協力隊員からは、地域の魅力発信として和菓子提供に関する

話や、陶芸・革・木材を用いた加工品の普及に向けた取り組み、狩猟免許の取得を視野に入れて地域資源を生かした食材活用の検討など話を伺いました。

事業の展開や進展させる一つの方法として、既にクラウドファンディングを実施しているの、今後は情報周知や応援の輪を拡げていくことが重要であると、課題を共有することができました。

協力隊員との意見交換会を実施したことで、改めて地域の可能性を実感しました。今回の意見を参考に、今後の地域活性化活動に繋げていきたいと思えます。

【記 石田 浩二】



編集後記

新年を迎え、出初式、新年交礼会、二十歳の集い等に参加させていただき、新たな一歩を踏み出す皆さんの姿に希望と力強さを感じさせていただきました。

国会では衆議院の解散・真冬の総選挙が行われ、政権与党が議席を大きく伸ばしました。本町でも、4月から新たな町政が始まる節目の年となります。ひとり一人の思いが、町の未来を考える大切な年になります。希望を共有し、町に寄せられる様々な声を大切にしながら町政へとつなぐ役割を果たしたいと思えます。

この議会だよりが皆様のお手元に届く頃は季節も春に向かい卒業の季節。

私事ですが16年間の大学通いも卒業。教員、議員の二足の草鞋を履いた活動を支えてくださった全ての皆様に「感謝」申し上げます。

【記 笹木 笑子】

議会広報誌の編集委員

伊藤 充章・笹木 笑子
藏根 高史・石田 浩二